

## 三宅島の火山活動解説資料（平成 20 年 1 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

7日に山頂火口でごく小規模な噴火が発生しました。  
多量の火山ガス放出及び火山性地震のやや多い状態が続いています。  
火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要です。雨による泥流にも注意が必要です。  
平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### 活動概況

#### ・噴火活動の状況（図 1、図 2、図 3、図 4、図 5）

7日 06 時 54 分頃、山頂火口でごく小規模な噴火が発生し、山頂火口から灰色の噴煙が火口縁上 300m まで上がり、南東に流れるのを観測しました。7 日午前中に行った現地調査では、島の東から南東の範囲（山頂火口から約 3 km）で微量の降灰を確認しました。

その他の観測データには特段の変化はみられません。

三宅島で噴火が発生したのは平成 18 年 8 月 23 日以来です。

1) 噴火などで発生した空気の急激な圧力変化が大気中を周囲に伝わる現象。

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 6 - 、表 1）

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上 100 ~ 300m で推移しました。

8 日及び 30 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり 1,400 ~ 2,500 トンで、依然として多量の火山ガス放出が続いています。

#### ・火口及び山体内の熱の状況（図 8）

地磁気連続観測<sup>2)</sup>では、短期的には火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

2) 山頂火口の北側（三宅島 A 点）で全磁力値が増加（図 4 で上向きの変化）、南側（三宅島 A 点以外の観測点）で減少（図 4 で下向きの変化）の変化がみられた場合は、火山体内部で温度上昇があったと考えられます。

#### ・地震や微動の発生状況（図 6 - 、図 7、表 1）

7 日のごく小規模な噴火が発生した際、空振<sup>1)</sup>を伴う振幅のやや大きなやや低周波地震（波形例は図 9 参照）が観測されました。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。期間中発生した火山性地震の震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図 6 - ）

GPS 連続観測によると、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続しています。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 2 月分）は平成 20 年 3 月 6 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。



図 1 三宅島 山頂火口からの噴煙の状況

2008 年 1 月 7 日：山頂火口東側から撮影、坪田（三宅島空港）遠望カメラによる。

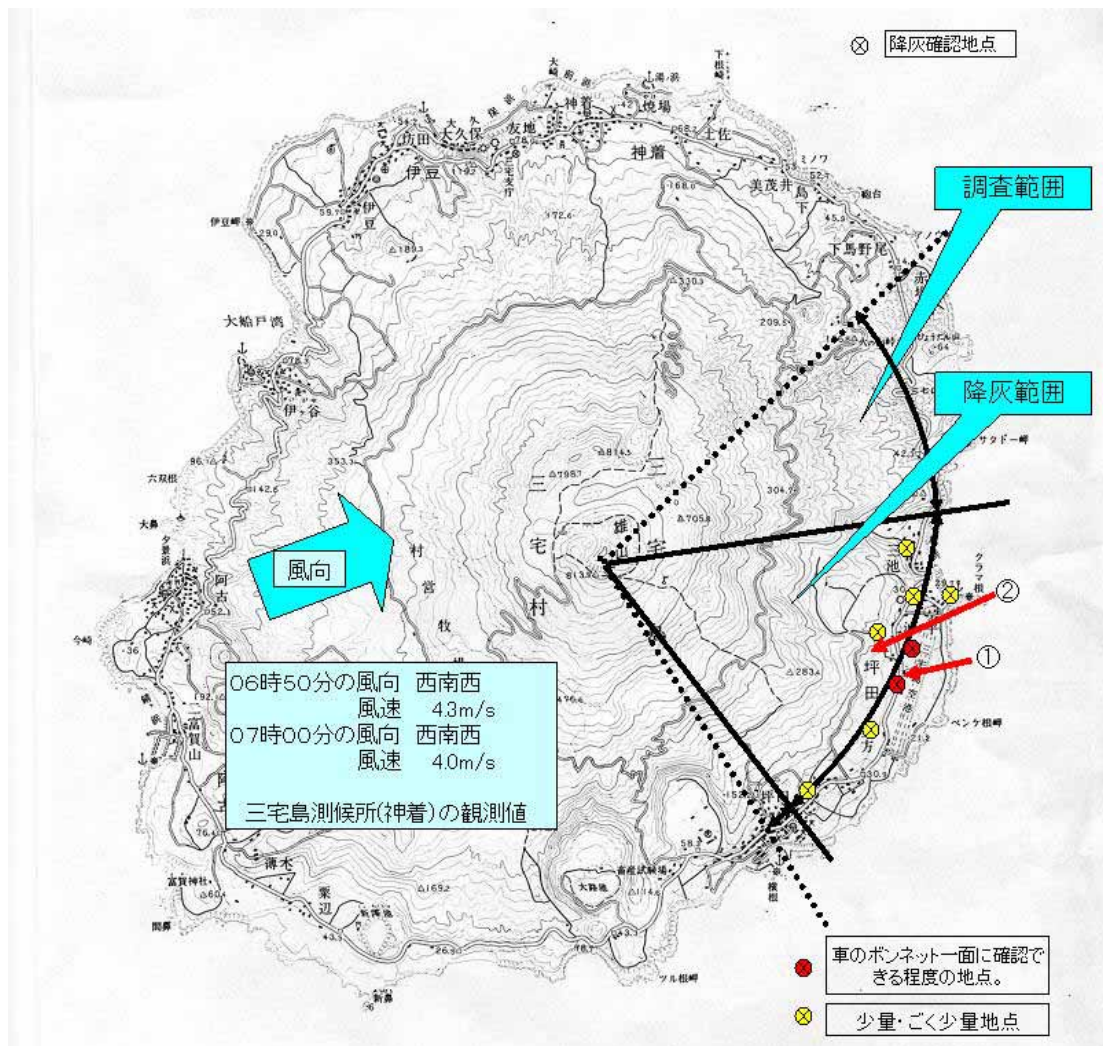


図 2 降灰調査結果



図3 三宅島空港（図2の ）での降灰状況（自動車のボンネットに火山灰付着）



図4 図3のボンネット部拡大写真



図5 金曾沢付近（図2の ）での降灰状況

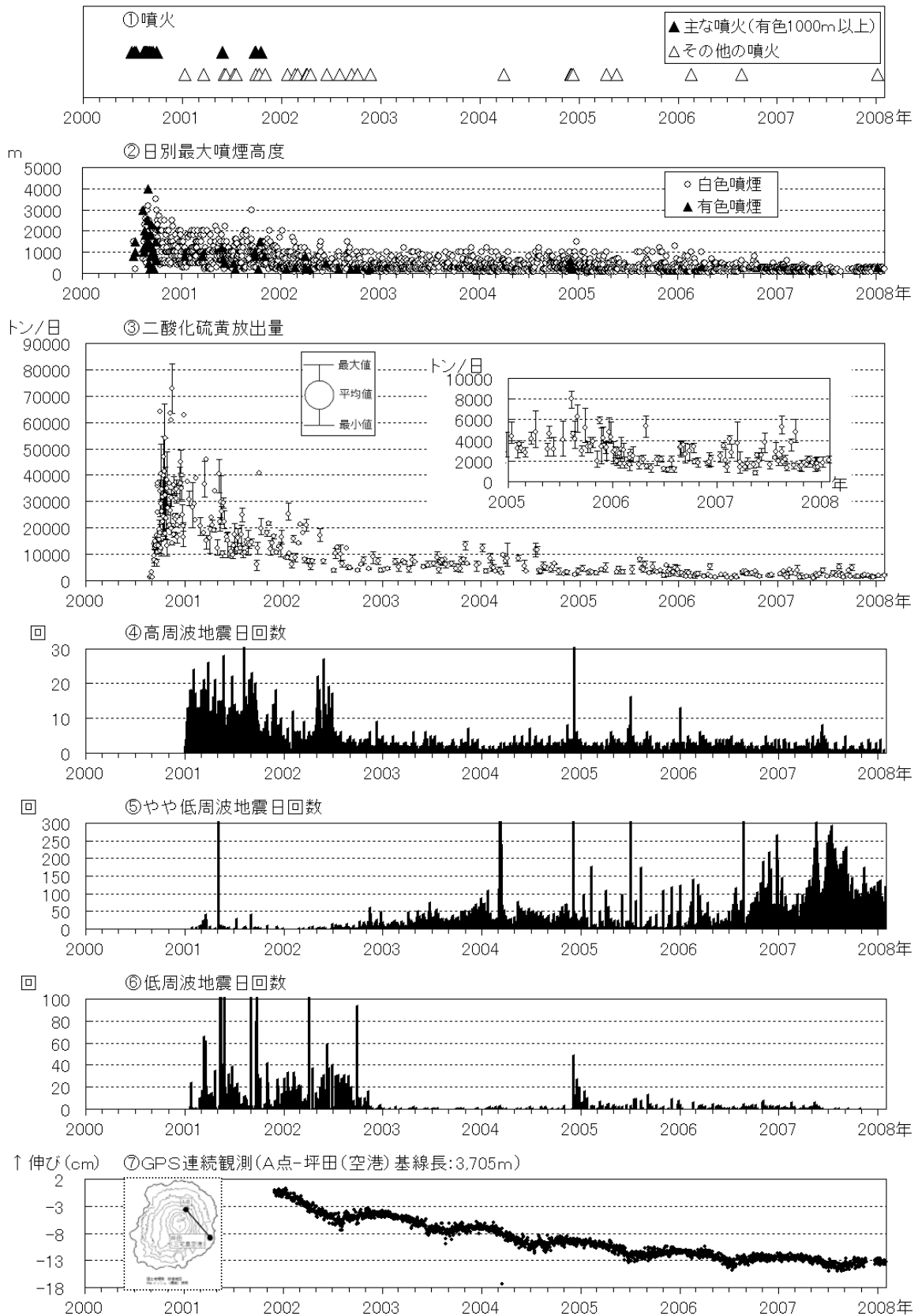


図 6 三宅島 最近の火山活動の推移（2000 年 1 月～2008 年 1 月）

は、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。

、及び は、地震の種類別（図 5 参照）に計数を開始した 2001 年 1 月 1 日からのデータを掲載しています。

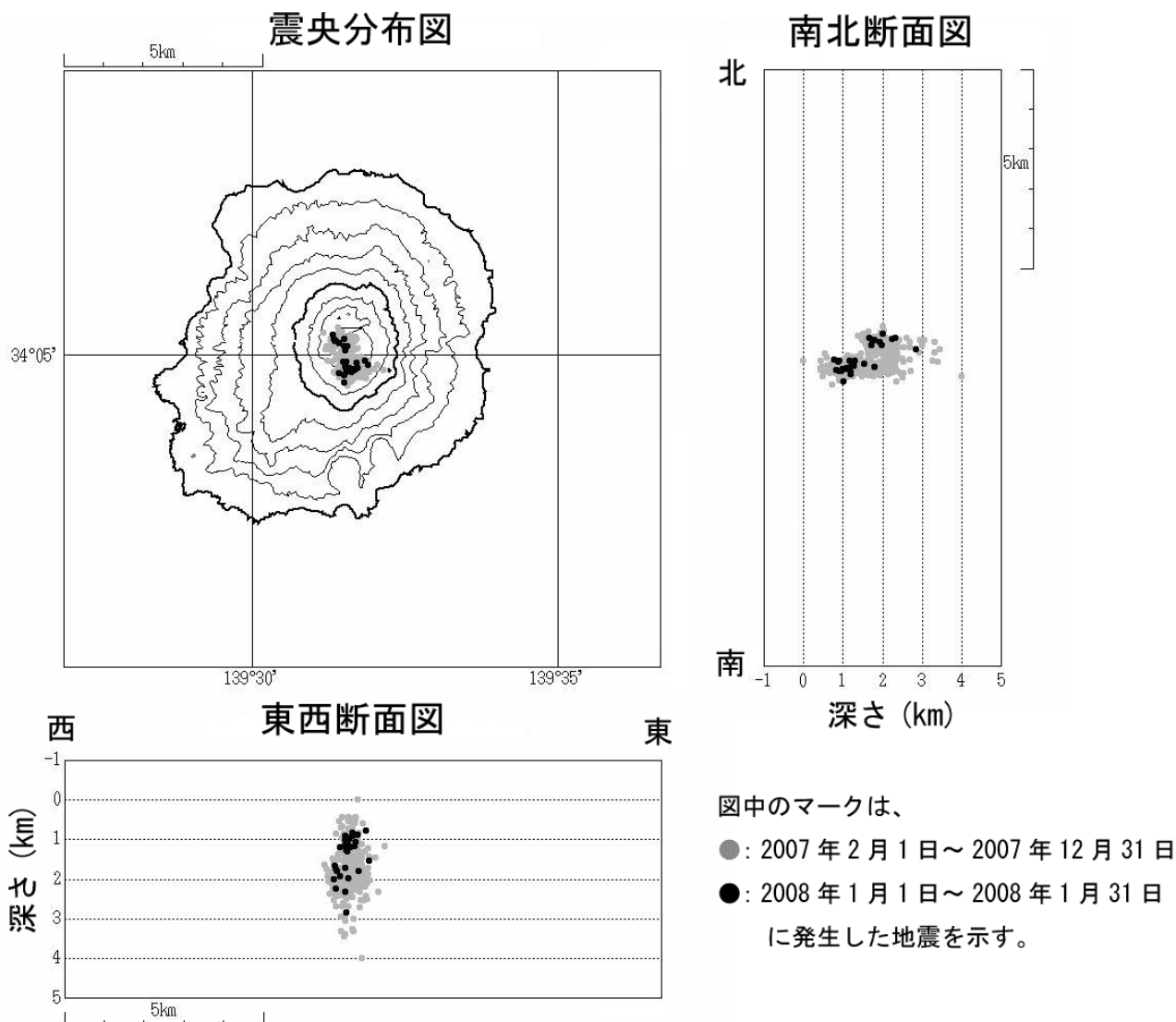


図7 三宅島 火山性地震の震源分布(2007年2月1日～2008年1月31日)

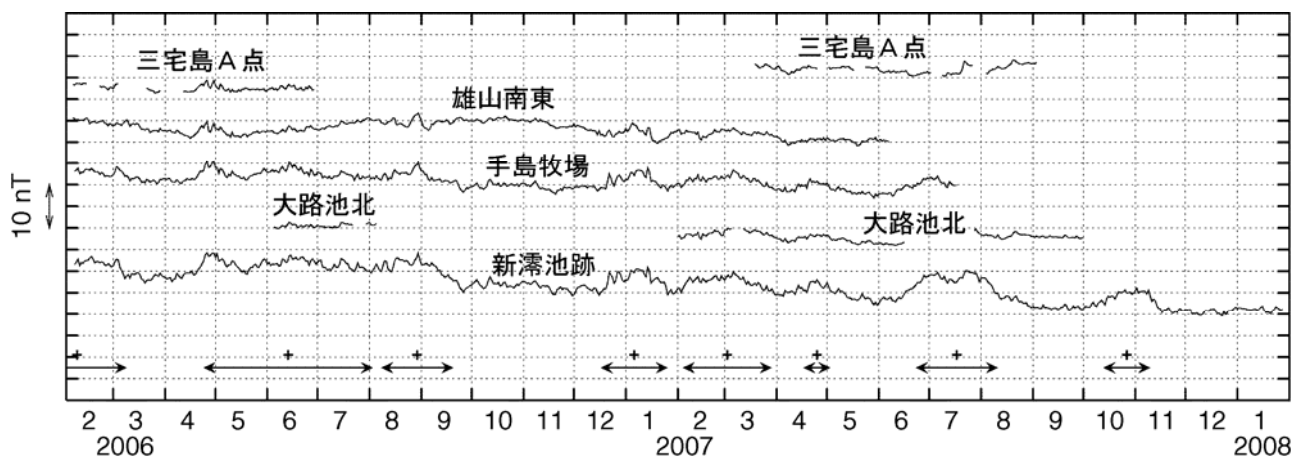


図8 三宅島 全磁力連続観測による全磁力値の変化(2006年1月1日～2008年1月31日)  
 ←→で示した期間の全磁力値は三宅島周辺の海流の影響を受けていると推測されます。  
 nT(ナノテスラ)は磁場の強さを表す単位です。

表 1 三宅島 2008 年 1 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震回数 <sup>3)</sup>			微動回数	噴煙の状況 <sup>4)</sup>		備 考
		高周波地震	やや低周波地震	低周波地震 (空振あり)		日最高(m)	噴煙量	
1日	0	0	134	0	0	×	×	
2日	0	0	104	0	0	×	×	
3日	0	0	83	0	0	×	×	
4日	0	0	61	0	0	×	×	
5日	0	0	57	0	0	200	1	
6日	0	1	93	0	0	200	1	
7日	1	1	54	0	0	-	-	06時54分ごく小規模な噴火、山麓でごく微量の降灰
8日	0	1	98	0	0	-	-	二酸化硫黄放出量 1,400~2,400 トン/日
9日	0	0	97	0	0	200	1	
10日	0	0	138	0	0	-	-	
11日	0	4	95	0	0	200	2	
12日	0	0	>71	0	0	×	×	
13日	0	0	90	0	0	×	×	
14日	0	0	70	0	0	200	1	
15日	0	0	68	0	0	300	2	
16日	0	0	90	0	0	100	1	
17日	0	0	56	0	0	×	×	
18日	0	0	76	0	0	100	1	
19日	0	0	60	0	0	200	1	
20日	0	0	65	0	0	300	1	
21日	0	0	63	0	0	×	×	
22日	0	1	36	0	0	×	×	
23日	0	0	50	0	0	×	×	
24日	0	0	47	0	0	-	-	
25日	0	0	49	0	0	300	2	
26日	0	0	40	0	0	×	×	
27日	0	0	26	0	0	200	1	
28日	0	0	46	0	0	200	1	
29日	0	0	83	0	0	×	×	
30日	0	0	121	0	0	-	-	二酸化硫黄放出量 1,800~2,500 トン/日
31日	0	1	118	0	0	200	1	
合計	1	9	>2339	0	0			

3) 火山性地震の計数基準は A 点で最大振幅 8  $\mu\text{m/s}$  以上、S-P 時間 3 秒以内です。  
火山性地震の種類は以下のとおりです。

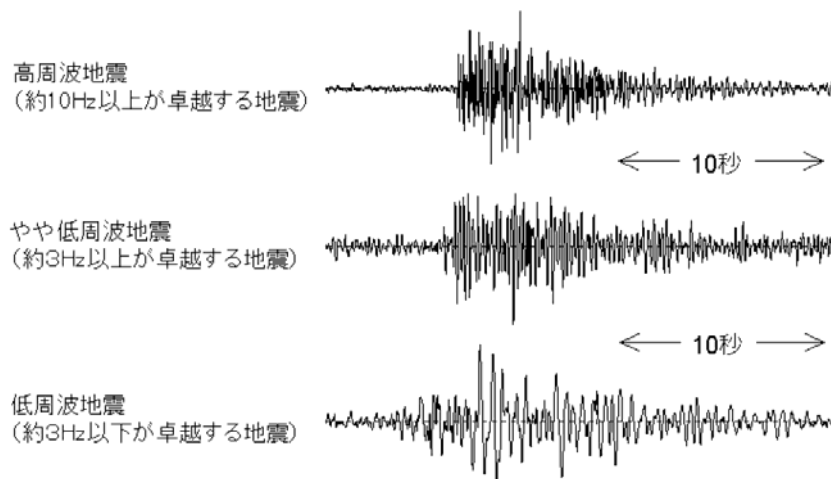


図 9 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

4) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09時・12時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。  
1: 極めて少量 2: 少量 3: 中量 4: やや多量 5: 多量 6: 極めて多量  
7: 噴煙量 6 以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの  
- : 噴煙なし x : 不明

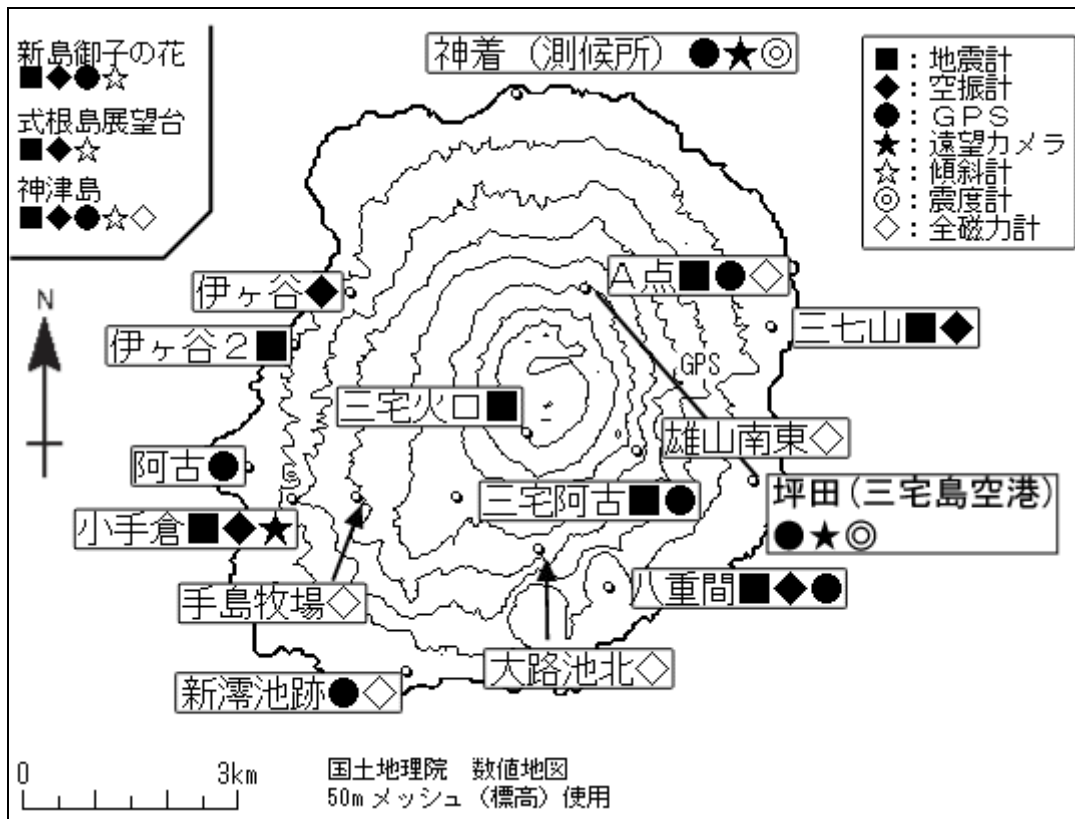


図 10 三宅島 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています）  
GPS 基線（A 点 - 坪田）は図 2 の に対応しています。